

防災新聞

災害を
生き抜くための
挑戦

時は平成から新しい時代を迎える。平成を振り返ると、IT技術の進歩などで私たちの生活が大きく変わった時代であった。一方、災害の時代でもあった。平成7年の阪神・淡路大震災、平成23年の東日本大震災、平成26年の台風11号・12号豪雨による水害…。私たちの町や心に大きな傷跡を残した。災害は時代を選ばず起る。災害を乗り越え、新しい時代を生き抜くための挑戦を迫った。

地域防災力 連携を強化

市総合防災訓練を実施

大雨と地震の複合的な災害を想定した阿南市総合防災訓練が平成30年11月18日、羽ノ浦グラウンド・羽ノ浦総合国民体育館で行われた。地元自主防災組織など27機関約800人が参加し、連携強化に取り組んだ。



初期消火訓練に取り組む訓練参加者＝羽ノ浦グラウンド

訓練は、地域の防災力を高めるため、住民が主体となって避難所開設・運営を行った。

豪雨による河川の氾濫、土砂災害に加え、南海トラフ巨大地震・津波が発生した複合的な災害が発生したとの想定で実施。周辺住民は体育館まで避難した後、役割分担し、避難所を設営。簡易トイレの組立、要配慮者への対応方法などを確認した。

また、グラウンドでは被災車両からの負傷者救出訓練、初期消火（バケツリレー）や応急救護訓練が行われたほか、ドローンによる孤立者救出訓練が行われた。ドローンはロープを張るのにも利用されたほか、被災車両での情報収集活動を行った。

避難所開設に参加した住民は、「慣れないので手間だった。災害時には、皆と協力し命を守りたい」と話していた。

快適な避難所 畳の支援協定を締結

本市は、徳島県豊商工業組合阿南支部との間で、「大規模災害時における物資の支援に関する協定」を締結した。



徳島県豊商工業組合阿南支部会員
＝半瀬商店（長生町）

大規模災害時、避難所等で畳が必要となったときに、協定に基づき無償で提供を受ける。

大規模災害時には、公民館や学校、体育館などの公共施設が避難所として開設されるが、避難者が板の床に直接、布団やダンボールを敷いて寝泊まりするような状況も考えられる。徳島県豊商工業組合阿南支部で常時保管している古畳約5000枚を、大規模災害発生時に無償で提供したいとのご厚意を受けて、協定の締結に至った。

組合長の萩原 實さん（68歳・宝田町）は、「少しでも快適な避難生活に役立ててもらいたい」と話していた。

阿波公方民俗資料館で消防訓練

文化財を守る

文化財防火デーにあわせて1月27日、市指定文化財（榎龍閣詩集）を展示する阿波公方・民俗資料館で消防訓練が行われた。

市消防団（那賀川分団第1～6班）、市消防本部、文化振興課職員、資料館員



一斉放水する消防団員＝阿波公方・民俗資料館

係者など約50人が参加。失った二度と戻らない文化財を次の世代に伝えていくため、火災は絶対に起こさない、そして地域の防災に磨きをかける、という使命を再確認した。訓練では、資料館関係者による初期消火後、消防署に通報し、発動した消防車が資料館建物に一斉放水。那賀川分団長の前田久夫さんは「消防団員も世代交代をしなければならぬ。今回の訓練は、消防ポンプ車操作をベテラン団員から後輩に技術指導しながら行うことができた」と話していた。

災害弱者に優しい避難所

住民主体の避難所開設・運営



母子スペースを体験する参加者＝阿南支援学校

住民が主体となり、避難所の開設から運営を行う「平成30年度県南部圏域防災訓練」が平成30年12月16日、阿南支援学校で実施され住民など約300人が参加した（徳島県・阿南市主催）。訓練は、南海トラフ巨大地震・津波が発生したことを想定。参加者は、同学校体育館で役割分担をし、相談しながら、避難所を開設から運営する一連の活動を実施した。

災害弱者の要配慮者（高齢者、障がい者、妊産婦、乳幼児など）のための福祉スペース、母子スペースを設置した。また、医療救護所を設け、傷病者の重症度を判断して治療の優先度を定めるトリアージ訓練も行った。訓練に参加した上大野協議会会長の尾崎彰則さん（78歳）は、「訓練を行って、問題があった箇所は改善したい」と話していた。

阿南工業・光高校 第3席

全国の高校生が事業企画や計画を競う「第6回ビジネスプラン・グランプリ」（日本政策金融公庫主催）で、阿南工業・阿南光高校が第3席の審査員特別賞を受賞した。

ビジネスプランGP

放置竹林の竹を商品化

コンテストの最終審査会が1月13日、東京大学本郷キャンパスであり、阿南工業・光高校は、放置竹林解消のため、伐採した竹を活用した防災懐中電灯「ぼてっとライト」や竹パウダーの特性を生かした災害用ハイオトイレ「ぶりフリー」を提案した。地域課題を防災に結びつ



最終審査会で発表する機械科3年の平田竜士さん、西崎光信さん、下野康生さん（右から）＝東京大学本郷キャンパス

けたことが高く評価された。コンテストには、396校から4359件の応募があった。

災害復興の事前準備を

復興まちづくり イメトレを開催

大規模災害発生後、迅速にまちを復興するため、あらかじめ準備する図上訓練「平成30年度徳島県復興まちづくりイメトレ」が、平成30年11月20日に市役所で開催された。



グループで検討したプランを発表する市職員＝市役所

講師で東京大学生産技術研究所准教授の加藤孝明さん指導のもと、市職員など40人の参加者が、南海トラフ巨大地震・津波が発生後、J R阿南駅周辺の市街地を復興するプランを話し合った。

参加者はグループに分かれて、復興の過程、必要な生活再建支援策やまちづくりの制度などを検討。各戸の生活再建を含めた市街地復興プランを立案した。その後、グループごとにプランを発表し、意見交換した。「住民の合意形成が不可欠」「復興にあたる行政の人材育成が重要」などの意見があった。

参加した危機管理課の遠藤大介さん（39歳）は、「まちづくりについて、いろいろな意見が聞け、視野が広がった」と話していた。

県では、平成30年3月に「徳島県震災復興都市計画指針」を策定し、復興事前準備の啓発・促進を進めている。

自治体の垣根を越えて

由岐小児童が避難経路確認



避難訓練をした児童を受け入れる住民＝福井南小学校

地震・津波への対応を学ぶ防災デーキャンペーン「避難所探索」が福井南小学校（休校中）で開催され、由岐小学校児童などが参加した。児童14人は、地震・津波が発生したと想定し、由岐小から受け入れ先になっている福井南小体育館まで徒歩で1時間30分かけて避難。その後、福井町住民と交流した。坂田瑞希さん（6年生）は、「実際に住民の方と交流すると、距離が近くなったと感じた」と話していた。

阿南市公式チャンネル「広報あなん動画版」を放映

市政について広報番組を制作し、ケーブルテレビ11ch（ケーブルテレビあなん、県南テレビ）やYouTubeで放映しています。



3月から、第6回「防災の取組」を放映。羽ノ浦町で行われた市総合防災訓練を中心に、阿南市の防災の取組を紹介します。

問い合わせは 秘書広報課 ☎22-1110へ

阿南南ロータリークラブ 南海トラフ巨大地震対策プロジェクト

防災標語最優秀作品

防災は 一人一人の 意識から
 新野中学校2年 高島 隼人さん
 防災は 気にかげ 声かけ 心かけ
 見能林小学校4年 谷 在温さん
 ひなん場所 家族で決めたら また会える
 新野小学校3年 平井 龍馬さん

防災ポスター 最優秀作品



富岡小学校5年 阪本 奏一郎さん



阿南第二中学校1年 國行 莉子さん



津乃峰小学校2年 四宮 陽人さん

阿南南ロータリークラブは、平成18年に防災委員会を設立し、積極的な活動を行っている。標高表示板の設置や橘地区防災公園へのいす寄贈など活動は多岐にわたる。また、防災啓発は子どもの頃からと市内小、中学校に呼びかけて、防災啓発標語・ポスターコンクールを継続して実施。第9回目となるコンクールでは、標語596点、ポスター112点の出品があった。優秀作品が、下記のとおり展示される。

第9回防災啓発標語・ポスターコンクール作品の展示

日時 3月4日(月)～28日(木)
 8:30～17:00
 ※28日は15:00まで
 場所 市役所庁舎2階 市民交流ロビー
 作品展示 防災啓発標語 (23点)
 防災啓発ポスター (112点)
 圃 阿南南ロータリークラブ事務局
 (ホテル龍宮内 ☎27-2027) へ

外国人宿泊者を想定

外国人宿泊者を想定した避難誘導や応急救護などを行う防災訓練が平成30年11月10日、新野町の民泊施設「熊猫屋（パンダヤ）」で行われ、徳島文理大の留学生や民泊施設関係者ら約30人が参加した（新野シームレス民泊推進協議会主催）。

新野シームレス民泊防災訓練



被災した外国人を救出する＝熊猫屋（新野町）

訓練は、最近外国人の歩き遍路の宿泊客が増えていることから、民泊施設で外国人が宿泊中に、南海トラフ巨大地震が発生したとの

想定で行われた。被災した外国人に身ぶり手ぶりや自動翻訳機などを使い意思を伝えた。熊猫屋代表の北村英雄さん（64歳・新野町）は、「とっさに外国人とコミュニケーションをとることは難しいので、普段から準備したい」と話していた。同協議会は、平時は民泊施設で、災害時は避難所になる仕組み作り（シームレス民泊）に取り組んでいる。

「未来を守る防災活動賞」受賞

津乃峰町自主防災会合同会議・津乃峰小



津乃峰町自主防災会合同会議の浦田 貞さん（右）と無善千尋さん（左）

徳島県自主防災組織交流大会が1月20日、徳島県防災センターで開催され、津乃峰町自主防災会合同会議と津乃峰小学校が、徳島県知事表彰「未来を守る防災活動賞」を受賞した。

沿岸部に位置する津乃峰町住民・学校関係者は、津波に対する危機感が強い。町内にある18の自主防災会で組織する合同会議は、津乃峰小学校が行う防災活動を支援。避難訓練や防災マップの作製・配布などに参加し、積極的に関わり合う。合同会議長の浦田 貞さん（71歳・津乃峰町）は、「これからも町全体が一体となった活動を行いたい」と意気込んでいる。